

新・東の風

令和3年度
9月号

長い夏休みも終わり、2学期がスタートしました。皆さんはどういう夏休みを過ごしましたか。緊急事態宣言が大阪でも発令され、制限の多い夏休みとなりました。その中で開催された2020 東京オリンピック、賛否両論、いろんな意見が飛びかいましたが、金27個・銀14個・銅17個と日本選手団は感動を我々に与えてくれました。メダルを取った選手の言葉を聞くと、今までのメダリストの言葉と今回、大きな違いが見えました。今までの名言は、「チョー気持ちいい」「初めて自分をほめたい」「今まで生きてきた中で一番幸せ」等まわりに気にすることなく、まっすぐな感情表現をあらわしたものでした。しかし、今回のメダリスト達の言葉は、「まずは、大会の開催と運営に協力してくれた人と、テレビの前で応援してくれた人全員にこの場を借りて感謝したい。本当にありがとうございます」と開催できた喜びを口にし、皆さんに感謝している言葉が多かったです。コロナ禍で異例なく開催となった東京オリンピックでしたが、「他者への感謝」を大事にする大会であったと思います。皆さんはどう思われましたか。

さて、24日からもう一つのオリンピックである、「パラリンピック」が始まっています。そこで今回は、「パラリンピック」について少しですが紹介します。

パラリンピックは、元々、パラプレジア(Paraplegia、下半身麻痺者)+オリンピック(Olympic)の造語がありました。イギリスにあったストーク・マンデビル病院(下半身麻痺者の専門医院)で、リハビリとして行われた競技大会が発祥と言られています。この病院は、戦争で負傷した兵士たちが多く入院しており、リハビリテーションとして「手術よりスポーツを」の理念で始められたものであります。パラリンピックは愛称であり、ストーク・マンデビル競技大会とよばれています。その後、国際大会となり1952年に第1回国際ストーク・マンデビル競技大会が開催されました。1960年には、国際ストーク・マンデビル大会委員会が組織され、この年のオリンピックが開催されたローマで、第9回国際ストーク・マンデビル競技大会が開催され、第1回パラリンピックと呼ばれています。

その後、1985年に「パラリンピック」を大会名として用いることを正式に認められました。同時に、既に半身不随者以外の身体障害者も参加する大会となっていましたことから、大会名の意味を「ギリシャ語のパラ(Para、(英語のパラレル(平行)の語源)+オリンピック(Olympic Games)」とし、「もう一つのオリンピック」として再解釈することになりました。1988年のソウル大会から、「パラリンピック」が正式名称となるとともに、1960年のローマ大会以後の国際大会を、「パラリンピック」と表記することになりました。オリンピック同様、パラリンピックも私たちにたくさんの感動を与えてくれるでしょう。

さあ、2学期が始まりました。緊急事態宣言が続く中、「がまん」「しんぼう」、制限のある学校生活が続きますが、このことは必ず「粘り強さ」として、自分の力になります。前を向いて進みましょう。